

応急仮設住宅における高齢者の移動環境について

岩手県宮古市田老地区を例に

岩手大学 学生会員 ○レイラ トムルニヤズ 岩手大学 正会員 平井 寛

岩手大学 正会員 南正昭

I. 研究背景・目的

平成 23 年 3 月 11 日の地震津波による犠牲者の多くが 60 代以上であった。高齢者は高地に避難する意思を持っていても長い距離を自らの歩行で移動することは非常に困難である。

人口減少、少子高齢化の進展、特に、単身・高齢者夫婦世帯の増加とともに、高齢者の生活・暮らしへの不安は高まりつつある。また、高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らしていくためには、高齢者の健康を維持していくことも重要であり、健康寿命の延伸を図りつつ、安心して、安全に暮らすことができる住まいの確保・住み替え支援を図ることが必要である。

本研究では、宮古市田老地区グリーンピア三陸みやこ仮設住宅におけるアンケート調査結果を用いて高齢者世帯別のニーズと移動環境に関する分析を行い、移動環境についての問題を明らかにすることを目的とする。

II. 調査対象と研究方法

1. 調査対象

岩手県宮古市田老地区のグリーンピア三陸仮設住宅の 65 歳以上の在宅高齢者を対象として行った。65 歳以上の者一人のみの世帯（以下「一人暮らし世帯」という。）の男女 47 世帯に調査票を配布し 39 票を回収した（回収率 83%）。夫婦ともに 65 歳以上で夫婦のみ世帯（以下「夫婦のみ世帯」という。）の男女 51 世帯に調査票を配布し 41 票を回収した（回収率 80%）。特に属性を限定しない世帯（以下「一般世帯」という。）の 65 歳以上の男女 89 世帯に調査票を配布し 78 票を回収した（回収率 87.6%）。

2. 研究方法

2013 年 12 月、宮古市田老地区の仮設住宅の高齢者を対象にアンケート調査を実施した。調査項目は、高齢者の外出目的、交通利用手段、個人属性等とし、高齢者の買い物や通院行動、仮設後の居住、移動環境、田老地区の町づくりに対する希望などであった。

仮設住宅を直接訪問し、調査票を用いる対話形式でアンケート調査を実施した。

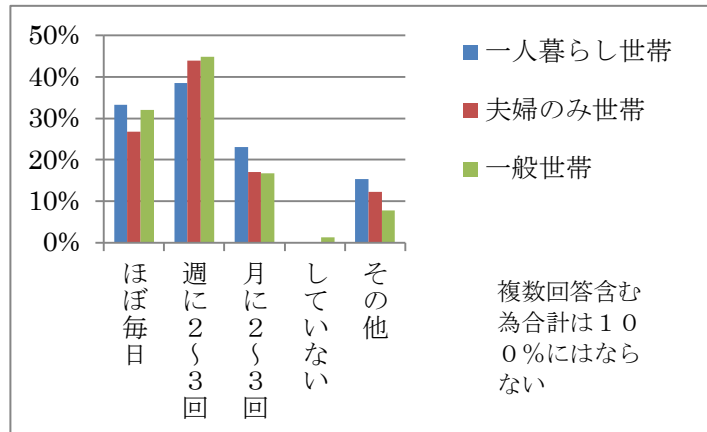


図 1 外出頻度

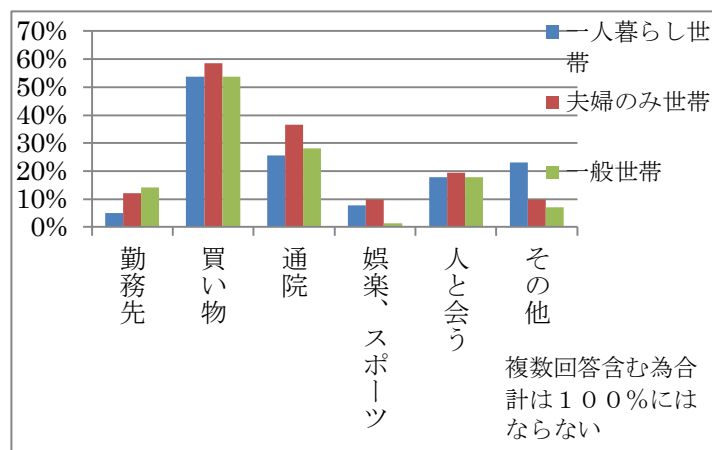


図 2 外出目的

III. 調査結果・考察

1. 外出頻度

図 1 に示すように、すべての世帯で「週に 2-3 回」の回答割合が高くなっている。

2. 外出目的

図 2 に示すように、すべての世帯別ほぼ同じ割合で買い物、通院を目的として移動しているのが見られた。

3. 利用している交通手段

図 3 に示すように、一人暮らし世帯では、「徒歩」の 41%の次に、「バス」の割合が高く、「自動車」よりも

キーワード：仮設住宅 高齢者 移動環境

連絡先：岩手大学工学部 岩手県盛岡市上田 4 丁目 3-5 TEL:019-621-6453 FAX : 019-621-6460

高くなっている。一人暮らしの世帯では運転できないまたは車を持っていない人が一定割合おり、バスが重要な手段となっていると考えられる。夫婦の世帯では「バイク」「友人・知人の車同乗」の割合は低くなるのに対し「バス」「車を自分で運転」の割合が高くなっている。一般世帯では「家族による自動車送迎」の割合が高くなっているのが見られた。

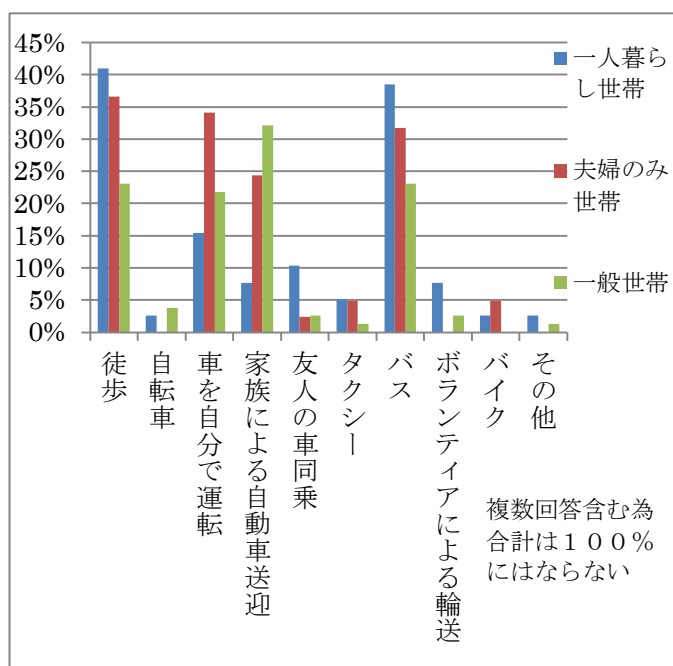


図3 外出の時利用している交通手段

表1 外出時の交通手段の利便性

	一人暮らし世帯		夫婦のみ世帯		一般世帯	
	人数	割合(39人中)	人数	割合(41人中)	人数	割合(78人中)
無	22	56.4%	25	61%	51	65.4%
バスが少ない	13	33.3%	8	19.5%	19	24.3%
バスの乗降	2	5.1%	1	2.4%	1	1.3%
料金が低い	1	2.6%	2	4.9%	2	2.6%
バス停が遠い	1	2.6%	5	12.2%	5	6.4%

外出時利用している交通手段中の利便性の問題については、「バスの本数が少ない」ことについて回答した人の割合が高く、一人暮らし世帯で 33.3%、夫婦の

み世帯 (19.5%、一般世帯で 24.3%となっている。各種不便さを感じながらも全体的にバスを利用しているのが見られた。このように交通環境の改善の必要性は高いと考えられた。

IV. 結論

本研究では宮古市田老地区グリーンピア三陸仮設住宅の高齢者について、高齢者の外出状況と利用している交通手段と利便性について世帯別の比較を行った。外出頻度、外出目的と範囲は世帯間に違いが見られず、世帯に関係なく買い物と通院の必要性が現れていると思われる。交通手段には大きな違いが見られた。高齢者であっても夫婦のみ世帯では自家用自動車の利用が高かった。一般世帯では家族による自動車送迎の連用が高くなっている。バスの利用割合は高い順に一人暮らし世帯、夫婦のみ世帯となっている。今回の分析においては交通手段の満足度が低い傾向が見られるため、全体的に交通環境の改善の必要性がある。

V. 今後の課題

応急仮設住宅の立地状況に係る課題への対応としては、仮設住宅高齢者交通手段の確保、高齢者が必要なサービスや公共施設の確保、移動環境の改善と交通に対する満足度と関係を明らかにしていく必要があると考える。

VI. 参考文献

- 1) 宮古市 HP (震災の経過) :
<http://www.city.miyako.iwate.jp/cb/hpc/Article-1493-6544.html>
- 2) 水野 映子：高齢者の外出の現状・意向と外出支援策、研究開発室、(2004.9)。
- 3) 資料：「高齢者標準」による活力ある超高齢社会について検討メモ。
- 4) 平井 寛：高齢者の外出状況と満足度 日本福祉大学、pp266-270、(2009)。
- 5) 関根良平・岩船昌起・増沢有葉：東日本震災における仮設住宅の生活環境と住民の健康—パーソナル・スケールでの実証の研究に基づく提言、E-journal GET, vol. 8(1), 188-189, 2013